

Strong Mank.^{nock}O.^{ut} One

山牧田 湧進



【まえがき】

※【ご注意ください】

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

Dr. Gと蔵木 宏彰との最初の接点を作ったある意味立役者（疫病神？）とも
言える『無頼おじさん』こと力持ち世界級のブライアン。

蔵木の経緯上、ブライアンは彼と3年以上に渡り音信不通になっていたのだが、
その再会を偶然にも『DNA強化改変のための精液提供を直接セックスにて行
う』その相手という形で突然果たした。

そんな数奇な出来事の前後にも、ブライアンの身には運命のいたずらのような
性の出来事が連続して起こっていた。

強靱な肉体の鍛錬につられるようにいつの間にか鍛え上げられていたブライア
ンの尻の中。

その発覚と、蔵木との特別なセックスとその特別な意味を知ってしまったブラ
イアンは、そんなタイミングでストロングマン仲間の親友ロバートに抱かれるこ

とになってしまふ。

未経験ながらに尻も強靱かつ名器なブライアンは複雑な思いを抱えながら初体験にして劇的なノックアウトを相手に食らわせ、そして自らも食らってしまうのだった。

【主な登場人物】

・ブライアン

物語上の一人称「俺」。世界一級のストロングマン。実はあのDr・Gと蔵木 宏彰との接点を作った大元の原因がこの人物にある。蔵木の血の繋がらない父親の弟子というか後輩的なポジションだったが体格が並外れ過ぎて彼らと同業をすることは諦めたという経緯を持つ。過去、蔵木の父親不在時等で父親代わりのように面倒を見てやっていたこともあって蔵木からはつい『無頼おじさん』と呼ばれてしまうが実際の年齢差は8歳しかない。

・蔵木 宏彰（くらき ひろあき）

今回のストーリーではブライアンの回想としてのみの登場。年齢差はたった8歳なのにブライアンは蔵木のことを『ヒロ坊』と呼ぶのでお互い様である。お互いに惹かれ合っていた部分もあったが蔵木の血の繋がらない父親が

蔵木の恋人でもあったため二人が身体を重ねることは無かった……のにその後全く意外な経緯で突然セックスを行うことになった。蔵木の人並み外れたバカ力の基礎は成長期からブライアンと共に鍛えていた経験にあり、現在はさらにブライアンのDNAまでもが注ぎ込まれて強化されている。

・ロバート

物語上の一人称「オレ」。ブライアンのストロングマン仲間であり親友。ブライアンと同じ世界決勝戦の舞台に上がったこともあるがブライアンの成績を超えたことは残念ながらまだ無い。細かいことを言うと少し年下。かなりの大男だがブライアンが規格外なので比べてしまうと一回り小さい。ただ、顔の形のせいかライオンのような髪とヒゲの生やし方のせいか顔だけはやや大きく見える。ちよっぴりガサツだが朗らかで愛嬌がある。ノリでH出来るくらいブライアンに好意を持っている。

・コウ

物語上の一人称「僕」。長きに渡ってブライアンと親密にしているメイ
ンケアラー。ドクターコウと敬称されることもある。肉体的なことだけでなく
性的にもケアしてブライアンの活躍を陰でも支えている。ブライアンが性的
にも規格外なため性的ケアは嫁さん公認。

【目次】

表紙	1
まえがき	2
あらすじ	3
主な登場人物	5
第1章 プロローグ 名器発覚の経緯	9
第2章 ヒロ坊とのDNAセックス	19
第3章 全てがその方向に動いて行く	21
第4章 受精へのステップ	23
第5章 ストロングマンKO	25
奥付	27

第1章

プロローグ 名器発覚の経緯

「ん、あ、あ、……、ねえ、ドクターコウ？」

「なんででしょう？」

「あの、その、ドクターは、あ、……アナル、セックスには詳しい？」

「はあっ？」

藪から棒にそんなことを言われたら、こっちも思わず色んなことを考えちゃうでしょ。

シてえの？ サレてえの？

無駄に考えを巡らせながら気付かれないようにこっそり深呼吸、つと……。

いや、それは無いか。

少なくとも、お誘いの口調じゃないもんな。

んじゃ何？ 疑惑でも掛けて来てる？

でも、今のこのご時世に、そんな乱暴にこんなセンシティブなことを聞いて来るかね？

施術台にうつ伏せで横たわる彼を僕は背後から眺めてみる。

そりゃあ、付き合いも長くなれば、単なるコンディショナーとカスタマーって
いう関係からはみ出して、友達、親友みたいなノリに発展することもあるから、
こういうことを聞かれることも、っていうか、かなりパーソナルなことも平気で
べらべら喋るような仲になったりすることはもちろんあるでしょうよ。

でも、このお客、新進気鋭のストロングマンで、まだ若くて頭角を現して来た
ばかりで、僕みたいな専門のケアのところには頻繁に通うようになってからはまだ
日が浅いんだ。

つまり、一般的……って言っても何をもって一般的とするのかの根拠が無いか

ら、えーと、僕が思うには、まだこんなことを軽々しく聞けるほどの関係性は、この若いお客さんとは構築出来ない、と、思うんです。

もちろん、体調とか筋肉、関節、骨格、いわゆる競技に関係しそうな部分の肉体のケアが僕の専門職であるからして、その分野に関しては初対面であろうとも、どこまでも深く、広くお話させていただきますよ。

でも、アナルセックス、ってその肉体のケアの範疇に該当しますか？

僕は、しないと思うんだけどなあ。

……いや、すみません。自分、前科がありましたわ。

意気投合したってのもあるけど、若き日のブライアンと電撃速攻セックスしたのは若気の至りとはいえ、人のことをとやかく言える義理はありませんでした。謹んで前言を撤回させていただきます。かしこ。

「その、あの、訳あって、で、で、出来るようになりたいなあ、なんて思ったり

なんかしっちゃったりなんかして、頑張ってみているんですけど、どうにも出来そうなのがしなくって。……ドクターなら、身体全般に非常にお詳しい方なので、その辺りにももしかして詳しくあったりしないかなあ、と」

ふうん、一応は僕のことを『ポトム（受け）オーラがバリバリ滲み出ているからバレバレだぜ』とかは言ってはこないんだね。

まあ、こんなこといきなり言われる時点で、彼の中で『一番アナルセックスの受けをやっているような奴』に僕が認定されているってことなんだろうけど。

だってさあ、こういう言い方してくるってことはさあ、医学的な知識を欲しがっているわけじゃないでしょ？ この彼は。

実践のアドバイスが欲しいわけでしょ？ 彼は。

それで、バリバリ実践してそうで、成功している人にアドバイスして欲しいわけなんでしょ？

やっぱ『ポトムオーラがバリバリ滲み出てる』って言われているのとおんなじ

じゃねえか！ 自己はどうだろう……。

って勝手に決め付けちゃったけど、ええとですね、こういう言い方してくる、ってことは、突っ込まれる側として出来るようになりたい、ってことで良いんだよね？

あ、一応聞くか、直接。

「それは、ええと、単刀直入に言って、男根をアヌスに挿入^いれられるようになりたい、って解釈で合ってる？」

「……えーと、あの、……はい」

はーん、デッカイ図体して恋する乙女みたいに恥らっちゃって、まあ、『可愛くないわ！』って言いたいところだけど、ゴメンねツボだわめっちゃ可愛い♥
それにしても、うーむ、いったい誰の男根を受け入れたいのか、ってのがちよ

いとばかり気になるところではありますが、そうか、そういう相談を僕にしてき
ちやいますか、そうですか。

それじゃあ、ってんで、急遽特別ケアタイムを設けてちょっと手ほどきしよう
としてみたわけですよ。

若い筋肉マンの下半身脱がせて、指で彼の尻穴を触診。

羨ましさを通り越して妬ましいほどのプリップリのおケツをナデナデしながら
ローションを尻穴に垂らす。

まあどのみち僕が嫉妬できるようなレベルの相手じゃないんですけどね。相手
は若いストロングマンだ。勝負に、いや、試合にもなりません。僕に参戦できる
資格が無い。

……ってかなあ、こんな未経験の若さ弾ける肉体に『受け入れたい』なんて思わせるジゴロな不貞野郎はいつたこのどいつなんだい？
気になるなあ……。

色んな意味でなんか複雑な心境が拭えないまま、指の腹を優しく尻穴に押し当ててみる。

ん？ んん？

すげえ括約筋。ガッチガチじゃん。

流石駆け出しとはいえストロングマン。ってか、こりゃあ難敵だ。かなり念入りに解さないと指一本入らないぞ？

「ね、もっと力抜いて、リラックスして」

「し、てる、つもりなんですけどね」

「いや、もっとこう、漏らしても良いからいきむくらいの気持ちで尻の穴緩め

てよ」

「いや、これでも目一杯、気張ってるつもりなん、です、けど！」

えええええ！？」

さんざあれこれやって、外から触った感じでは多少は括約筋のガツチガちな固さは取れたような気はしたものの、相変わらず指の先っぽすら入れられない。

こっちもだんだん堪えが効かなくなってる、もういい加減良いだろ？ と、力を込めて指を突き立てたら。

「あだだだだ！」

また括約筋のガツチガチが戻ってきちまった……。

なんかそこでお互いにぷつぷつと気が途切れてしまって、また今度チャレンジしましょうか、ってその日はお開きになった。



(こちらは体験版です)



第2章

ヒロ坊とのDNAセックス



(こちらは体験版です)



第3章

全てがその方向に動いて行く



(こちらは体験版です)



第4章

受精へのステップ



(こちらは体験版です)



第5章

ストロングマンK0



(こちらは体験版です)





StrongManK.0.0ne

OpusNo. Novel-080
ReleaseDate 2021-12-23
CopyRight © 山牧田 湧進
& Author (Yamakida Yuushin)
Circle Gradual Improvement
URL gi.dodoit.info

個人で楽しんでいただく作品です。
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、
共有、アップロード等はしないでください。
(こちらは体験版です)